

普及活動情勢報告（令和4年7月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

甘とうの収量・品質向上を目指しましょう ～津野山土佐甘とう部会目慣らし会～



盛夏期における栽培の要点を説明する普及指導員

6月24日、JA高知県津野山営農経済センター「輝」で津野山土佐甘とう部会が目慣らし会を開催し、生産者19戸が参加しました。

当課からは、盛夏期の収量・品質向上に向け、生育状況の確認と、病害対策、かん水管理事例の紹介、GAP点検の啓発を行いました。

生産者からは「A品率を上げたいので、樹の生育状況を見分ける手法を、広く提供してもらえないか」「GAP点検チェックをPCで実施してよいか」といった要望や質問などがありました。

当課は、今後も現地講習会や個別指導、視察研修等を通じて栽培・品質管理技術の向上を図ることで、生産者の所得向上につなげていきます。

最盛期に向け、よい品物を出していきましょう！ ～津野山ミョウガ部会目慣らし会～



規格の統一に向け、熱心に指導する普及指導員

6月27～28日、津野町桑ヶ市・北川地区、梶原町西の川地区の農家の調整作業場において、津野山ミョウガ部会が目慣らし会を開催し、生産者18戸が参加しました。

当課からは、早期時間帯のかん水の重要性や害虫対策を説明し、GAP点検の啓発、SAWACHIの加入推進等を行い、盛夏期の収量・品質向上に向けた栽培の要点と、IoT技術について周知しました。

生産者からは「遮光の効果はどのようなものか」「かん水時間帯の実証試験は他に事例はないか」といった質問がありました。また、SAWACHIに関心を示す農家もありました。

当課は、今後も現地講習会や個別指導、視察研修等を通じて、ミョウガ農家の出荷量・品質向上に努めていきます。

津野山地域の新たな農業担い手に！高知県園芸農業を紹介！ ～梶原高校出前授業（1年生）～



熱心に授業を受ける高校生ら

6月29日、津野山地域営農連絡協議会が、梶原高校1年生38人を対象に、出前授業を開催しました。

梶原町の農畜産業が紹介の他、当課から「高知県の園芸農業」として、高知県の園芸品目やデータ駆動型農業の取組などを紹介しました。

授業を受けた生徒からは、「高知県には全国1位の品目が多くあってびっくりした」「農業に興味を持った」といった声があり、農業に関心を持ってもらう良い機会となりました。

梶原高校は農業コースを設置しており、新たな農業の担い手の確保を目指し、今後も連携した活動を進めていきます。

ニラにおける天敵利用の可能性を探求して ～ニラ IPM 技術現地実証試験を開始しました～



天敵を放飼する普及指導員

6月30日、中土佐町のニラ農家で2種類の天敵（リモネカスカブリダニとククメリスカブリダニ）を放飼し、天敵と薬剤の、ネギアザミウマに対する防除効果と費用対効果を再検証するための実証試験を開始しました。

これは、昨年度から取り組んでいる IPM 技術実証試験（リモネカスカブリダニを活用したネギアザミウマ対策）の再検証として、農家からの要望もあり実施するものです。

今後は2週間に1回の頻度でネギアザミウマ及び天敵の発生状況を調査し、併せて防除費用について検証していきます。

キュウリ栽培終了時に防除対策を検討 ～キルパー処理実証～



キルパー処理後のハウス内
キュウリ

6月下旬から7月上旬の間に、須崎市の促成キュウリ農家ほ場で、JA 土佐くろしおと連携して、作終了時の防除対策としてキルパー処理を実施しました。

ハウス内でキルパーを希釈かん水した後、直ちに蒸し込み処理し、温度の推移や黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマの頭数を調査しました。

実証農家からは「薬剤と温度の相乗効果で病害虫に対する効果も期待できそうだ」との声も聞かれました。

今後は、次作において、黄化えそ病の他、防除効果が期待されるつる枯れ病の発生本数を調査します。実証結果をもとに「キルパー処理マニュアル」を作成し、作終了時の防除対策の普及に取り組んでいきます。

新規就農者などの知識習得を目指して ～令和4年度農業基礎講座～



土壌分析を実演する普及指導員

7月5日、須崎総合庁舎で就農希望者や新規就農者など7人を対象に、第1回農業基礎講座を開催しました。

講座では、農業を始めるに当たって「これだけは知っておきたい」栽培・経営の基礎知識について、4回に分けて研修していきます。

1回目は、土づくりの基礎、経営計画の作成と経営状況の記録について説明しました。

参加者からは、ECの適正值についての質問などが出され、ほぼ全員から「分かりやすく、理解できた」と感想がありました。

今後は、8月5日までの3回開催で、植物生理や病害虫防除、経営管理などについて説明していきます。